安城市歷史博物館
催し物案内
2024.4-2024.9

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY

歌川芳藤『志ん板猫尽両めん合』(個人蔵)

企画展
「はたらく道具たち －職人の仕事道具－」

会期:2024年4月13日(土)～6月30日(日)

観覧料:無料

ひと昔前までのくらしでは、職人たちはわたしたちの生活にとても身近な存在でした。大工、屋根屋、板金屋などの職人たちは家を建てるときに欠かせない存在でしたし、襖など家の中の調度品は建具屋が作っていました。農作業に欠かせない鍬や鋤は鍛冶屋が作り、壊れたときは職人に修繕してもらい、長く使うことができました。桶などの生活道具も同様に、その多くは職人たちの手で作られ、修繕され、利用されてきたものです。

本展では大工や鍛冶屋、桶屋など人々のくらしの身近にいた職人から、安城にゆかりの深い素麺や煙火の職人まで、さまざまな職人の仕事と道具を紹介します。

削り台(筌屋の道具箱)(本館蔵)

特別展
「国絵図の世界－描かれた江戸時代の三河－」

会期:2024年9月28日(土)～11月10日(日)

観覧料:一般500円／中学生以下無料

徳川家康は江戸幕府を開いた翌年の慶長9年(1604)、諸大名に「国絵図」(地方図)と「郷帳」(土地台帳)の提出を命じました。国内統治の基本である国土の把握は、これ以後、正保期、元禄期、天保期にその時々の作成契機のもとで、国絵図編さん事業として行われました。

本展では本館所蔵の三河国絵図を中心に、国絵図を読み解いていきます。

正保国絵図(本館蔵)

特別展
「ごろごろまるまるネコづくし」

会期:2024年7月13日(土)～2024年9月8日(日)

観覧料:一般700円／中学生以下無料

人間の身近なパートナーとして犬と猫はよく知られています。なかでも美術や文学に表現されるのは圧倒的に猫が多いようです。気まぐれで複雑で非合理的で、ときにとびきり甘えん坊な美しい動物は今も昔も人々を惹きつけました。

日本では猫は「源氏物語」にみられるように宮中で寵愛され、近世になると肉筆画や浮世絵の題材として数多く登場するようになります。大の猫好きで知られる浮世絵師歌川国芳の周りには常に猫がいました。

本展では、猫の浮世絵を中心に、猫の生態や人と猫との関係に着目し紹介します。単に「かわいい」だけでない、猫の奥深い魅力を知ってみませんか。

歌川国芳『鼠よけの猫』(個人蔵)

利用案内

[常設展観覧料] 個人200円(中学生以下無料)・団体(20人以上)160円
障がい者手帳等お持ちの方及び同伴者1名様100円
[開館時間] 9:00～17:00(入館は16:30まで)
[休館日] 毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始(12/28～1/4)

交通案内

- ●名鉄西尾線南安城駅より東へ徒歩15分
- ●JR東海道本線安城駅より、あんくるバス(1番系統安祥線)川島行き10分
- ●JR東海道新幹線三河安城駅よりタクシー20分
- ●無料駐車場(230台収容)あり

安城市歴史博物館HP

住　所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
電　話 /0566-77-6655　FAX/0566-77-6600
https://ansyobunka.jp/　安城市歴史博物館